

## 児童養護施設・里親などを巣立った若者の再出発と自立を支える場としてのシェアハウス運営 －安心して住むことの出来る居場所の必要性－

特定非営利活動法人若者の自立支援 すみれブーケ

内田 朝代

(生きづらさを抱える若者の自立 社会的養護 若者の居場所)

### 1. 目的

18歳になり児童養護施設から退所した若者は、その後の支援が少ない中、過ごさなくてはなりません。様々な困難に立ち向かう若者たちの「実家となる居場所をつくりたい」という思いでNPO法人を立ち上げました。平成29年3月世田谷区桜上水に「さくらハウス」を開設。新たに令和3年9月世田谷区下北沢に「桃龍ハウス」を開設致しました。施設や里親、ひとり親家庭などを巣立った若者が帰ってこられる場、休息や相談に訪れられる場、就労のための準備ができる場、そうした実家としての居場所『シェアハウス』（すみれハウス）を提供することで、彼らの社会的自立と再スタートを支援しております。



ダイニング



1F101号室



「さくらハウス」定員4名

「桃龍ハウス」定員2名

### 2. 実践内容「家庭的なサポートと専門家によるサポート」

コーディネーターふたりを配置し、何かあったときには相談でき、「一人ではない」と思ってもらえるよう家庭的な寄り添いを行っています。若者たちの笑顔が成長にすみれブーケの活動の意義を感じています。家庭的なサポートと合わせて生活面だけでなく精神面支援なども行い、また学識経験者や児童養護前施設長（現理事長）など専門家による支援委員会を設けサポートを行っており、若者や同居する社会人等への助言等を通じて、自立へのサポートを手厚く行っております。

### 3. 結果

開設以来、若者の再スタートを支える場としての「すみれハウス」を13名が利用し、7名の若者が自立することができました。彼らにとって、自立後に遊びにまた休息しに帰ってこられる実家となる場所を目指しています。

現在6名の若者が利用しております。社会の自立に向けたスモールステップアップ（緩やかな自立への道程）が行えることで、安心と安全の確保ができ、経済的な貯蓄にとどまらず精神的な成長、彼ら自身が学び育つ場（エンパワーメント）できる場として効果が大きいことがわかりました。

### 4. 考察と今後の課題

当団体は制度外の試みのため公の補助金等はなく、会員様の会費や寄付金で事業を行っておりま

す。また、地域の行事に参加した際には多くの方々からたくさんのご支援と応援をいただいております。シェアハウス運営のための資金を調達しなければなりません。2020年新型コロナウイルスの影響により地域のイベント中止に伴い、広報活動も出来ず、運営費のための寄付もお願いできない中、コロナ禍に負けない！今できることを今やりたいとの思いでフィリピンの若者支援を行っているNPO法人SalamatAと共催にて、毎月第1第3日曜日に児童養護施設福音寮の玄関先をお借りし「かみきたチャリティマルシェ」を開催しています。



2020年12月～2021年10月現在



「かみきたチャリティマルシェ」

※新型コロナウイルス感染拡大をうけ、すみれハウス内での食事会等自粛せざるを得ない状況下、利用者である若者達とスタッフのコミュニケーションをとる試みを模索しております。また「かみきたチャリティマルシェ」を開催しています。地域の支えあいとして福祉作業所の製品を販売し、地域の方々とすみれハウス利用者の若者たちの参加もあり、良いふれあいの場となっております。

＜助言者コメント＞

柳澤 純（世田谷区子ども・若者部部长）

事例の事業は、児童福祉と生活困窮者自立支援等の施策の狭間で、援助を必要とする若者ニーズに  
応えるものだと思います。

事業利用に至るルートは様々のようですが、自立援助ホームの利用を経て「すみれブーク」の利用  
に至る利用者が12名中6名いらっしゃることは、自立援助ホームの制度から鑑みると、注  
視したいと思います。自立援助ホームは利用期間が短期間であり、様々な課題を抱えている利用者  
にとっては、ホームを退居する時点にあっても、社会の中で自立していくうえで、引き続く支援を必要  
としていることを表しています。もちろん、自立援助ホームや児童養護施設等は、退居者への支援に  
ついて取り組んでいますので、「すみれブーク」と共に、若者が、任意に選択して頼れる拠となっ  
ているものと考えます。

施設を退所した若者が、自己の積極的選択による場合はともかく、消極的に、あるいは制度の狭間  
で居所を転々とする事のないようにするとともに、振り返り、やり直しのチャンスを得ながら自立  
に向かっているよう、支援が広がることを期待します。

事例の事業運営には、利用者に負担いただく利用料多寡にも限界があることから、事業の持続可能  
性への課題があるのではないかと思います。そういった中で、独自イベントとして定期的に「かみ  
きたチャリティマルシェ」を開催されるなど、地域と積極的に関わっていらっしゃることは、利用者や  
スタッフへの効果のみならず、社会的養育についての地域住民の意識醸成となり、巡って、事業への  
支援にも繋がるものと期待します。

若者が自立していくスタート地点としての事例の事業が、持続的、安定的に運営できるよう、行政  
の立場から関心を持っていきたいと思っております。